

最近の学習和英辞典の傾向と今後の課題

—— 実用的和英辞典へ向けて ——

井 上 永 幸*

Nagayuki INOUE

Recent Trends of Learners' Japanese-English
Dictionaries and their Problems to Be Solved

—— Toward a Truly Practical Japanese-English Dictionary ——

1. はじめに

ここ数年、改訂版を含めて数種類の和英辞典が刊行されたが、¹⁾その発達ぶりには目をみはるものがある。コンピューターの導入によって辞書編集が著しく効率化されるなど辞書をつくる側の工夫もさることながら、辞書を利用する者の立場も配慮したものも多く出始めている。従来行われてきたような、見出し語に対する訳語や用例の提示のみによる用法指示に代わって、新しい言語学の成果を最大限に盛り込み、しかもその情報を視覚的效果の高いものにするなど、最近の英和辞典の傾向²⁾をそのまま取り入れる方向にあるといえる。

本稿では、これらの和英辞典の傾向とその問題点を指摘した上で、本当に利用者にとって役に立つ和英辞典とはどんなものであるかを考えてゆく。

2. 読解型と学習型

2.1 読解型の和英辞典

ここでいう「読解型の和英辞典」とは、見出し語の訳語とともに、できるだけ多種多様な用例を提示し、利用者がその用例の中から自分の表現したい内容に近いものを探し出し、そのまま利用したり、各自の目的に合うよう一部加工して利用する方式のものを指す。2.2で取り上げる「学習型の和英辞典」が現れるまでは、和英辞典の主流を成していた。この読解型の和英辞典の特徴は何といっても用例が豊富であるということで、与えられて

いる用例は主に文学作品・新聞・雑誌など、実際の書き言葉から収集されたものやそれを一部加工したいわゆる引用例文 (cited examples) である。

読解型の和英辞典で問題となるのは、辞典を作った側の意図を読み取れるかどうか、利用者の英語読解力や背景の知識、またときには日本語読解力に依存しているということである。したがって、辞典をつくる側が期待しているレベルに達していない利用者は当然支障を来すことになる。すでに述べたようにこの型の辞典は引用例文を中心に編集してあるので、日常生活で用いる表現よりも書き言葉の用例の比重が高くなっている。また、多くの場合何のスピーチレベル表示もなくこれらの用例が隣り合わせに並んでおり、利用者が文体的差異を読みとる力のないレベルの者である場合には利用しにくい。

2.2 学習型の和英辞典

この「学習型の和英辞典」³⁾とは和英辞典でいわゆる学習辞典形式のものを指し、1984年に『ライトハウス』が刊行されて以来盛んになった編集形態である。

学習型の和英辞典の特徴という、まず、ある程度用例の数は犠牲にしても、語法・意味・文化背景などの情報を重視し、利用者の語感が容易に養われるよう工夫がしてあることがあげられる。これはこの種の和英辞典が、それほど多種多様で高度な文章表現を必要としない比較的初級者を対象としているということとも関係していると思われる。また、最近ではできるだけ直感的にそういった学習情報を理解することができるように利用者の視覚的效果に訴えるような工夫が凝らされてきた。

次に、用例の種類であるが、読解型のものが引用例文

* 島根大学教育学部英語科教育（英語学）研究室

中心であったのに対して、学習型は語句の用法理解を助けるため焦点を絞った比較的単純な例が好まれ、いわゆる創作例文 (invented examples) が多用される。

2. 3 和英辞典の「学習型」化の具体例

2. 2で和英辞典の「学習型」化のあらましを述べたが、ここでは具体的にどのような工夫が凝らされているかを紹介し、適宜それらの問題点を検討してみる。

2. 3. 1 可算名詞・不可算名詞の区別

この区別は従来の和英辞典でも名詞の訳語の前に不定冠詞 ('a', '(a)') をつけて行われてきたが、学習英和辞典で定着した[C]や[U]の記号を用いる和英辞典も出てきた。

(1) けっこん¹ 結婚 — 動 … — 名 marriage [U]
★具体的な取り決めなどを指す場合には[C]。 — 形 …

(2) じゅみょう 寿命 (生命) life [U] ★個人の生命・命は[C]; … (以上『ライトハウス』)

ただし、この『ライトハウス』のように[C]か[U]のどちらか一方のみを表示するやり方では、訳語の名詞の前に不定冠詞をつけて表す場合には 'a' として表示できた[C]と[U]のどちらの性質も合わせ持つ名詞が表示できないことになり、この記号を使ったせいかくの利点が生かし切れていない。この点、『ブライト』では[C]と[U]の性質を合わせ持つ名詞には両方の記号を同時に表示している上、[C]の性質がまさる場合には[C]を先に、[U]の性質がまさる場合には[U]を先に示すといった方式を採用しているようである。⁴⁾

(3) けっこん【結婚】[C] [U] marriage (★個別・具体的なものの場合は[C])

(4) じゅみょう【寿命】[U] [C] life (★個人の寿命の意では[C]); … (以上『ブライト』)

2. 3. 2 発音表記

従来和英辞典と発音記号は無縁のものであったが、学習型和英辞典の多くが、発音を誤りやすい語には発音記号を表示するようになってきている。また、学習型の影響を受けて『プログレッシブ』などの読解型にも見られるようになってきた。

(5) まいそう 埋葬 — 動(埋める) bury [béri(:)] 他 … (以上『ライトハウス』)

(6) かんごく【監獄】a prison; a jail, (また英) gaol [dʒéil] … (『プログレッシブ』)

2. 3. 3 構文情報

学習型でも初期の頃は(他)や(自)などの記号で動詞の他動詞や自動詞を示す程度であったが、動詞以外の品詞も含めて文型や選択制限などを表示するものも現れている。

(7) (teach+人+名; teach+名+to 人)

佐藤先生が私たちに英語を教えてくれた Mr. Sato taught us English. ⇔ Mr. Sato taught English to us. (『プロシード』 s.v. 「教える」)

(8) ◇〈金額〉で〈物〉を買う

buy [get] 〈物〉 for 〈金額〉

pay [spend] 〈金額〉 for 〈物〉

Ⅱ私は70万円で中古車を買った。I bought a used car for seven hundred thousand yen. / I spent seven hundred thousand yen for [on] a used car. (『ブライト』 s.v. 「買う」)

ただし、『ブライト』の選択制限はすべての文型表示につけられているわけではない。

(9) ◇…に厳しい

be strict with…

Ⅱあの先生は生徒に厳しすぎる。That teacher is too strict with his pupils.

(『ブライト』 s.v. 「厳しい」)

選択制限を付けるのであれば、統一的にやらなければ利用者に不安を与えることにもなりかねない。(9)の場合、学習上の重要度を考慮して次のようにしたい。

(10) ◇…に厳しい

be strict with 〈人〉

be strict about 〈事〉

2. 3. 4 訳語の意味特性

『ライトハウス』は「まえがき」で「訳語が2つ以上並列されるときは必ず意味の区別か、または文体上の区別を記述した。(ただし、コンマで区切られた入れかえ可能な訳語の場合は別)」として、訳語が内包する意味特性の差を明示する試みをしている。『ライトハウス』が出る以前の多くの読解型の和英辞典が訳語の意味特性を明示しておらず、提示はしてあっても統一性に欠けていたことを考えると、『ライトハウス』の姿勢は大きく評価できる。

(11) しゅちよう¹ 主張 — 動(自分の立場を固持して) insist (on…) (自) ★ that 節がくるときは on を省く; (権利として主張する) claim 他; (事実だと主張する) assert 他; (反論に対して自分の立場を主張し続ける) maintain 他; (相手を負かそうと) contend 他; (理路整然と議論をして) argue 他

★例えば学問上の論争などにおける主張によく用いられる。 —[名]… (『ライトハウス』)

ただし、学習英和辞典の場合と同様に、⁵⁾ところどころに意味特性の表示と選択制限の表示との混同がみられる。

(12) ぴりぴり —[動] (神経質になって) be nervous ; (極度に緊張して) be high-strung ★以上両方とも「人」が主語； (神経が) be on edge. (☞擬声・擬態語(囲み)). †試験が近いので、学生は*ぴりぴりしている With the examinations approaching, [the students are getting nervous [the students' nervous are on edge].

(『ライトハウス』；波線筆者)

3種類の訳語のうち最初の2つだけが意味特性の説明であり、3番目のものは主語の選択制限の説明となっている。『ライトハウス』は「この辞典の使い方」で「()」の使用は「(1)訳語の前で、意味の説明を包む。(2)上記以外の箇所では、省略可能な文字・語句を包む。」とうたっているのであるから、(13)のような書きの方が適切である。

(13) ぴりぴり —[動] (神経質になって) be nervous ; (極度に緊張して) be high-strung. (☞擬声・擬態語(囲み)). †試験が近いので、学生は*ぴりぴりしている With the examinations approaching, the students are getting nervous. ★「神経」を主語にして ... the students' nervous are on edge. ともいえる。

2. 3. 5 スピーチレベル

学習型のものが出る以前にも、(米)、(英)、(口語)などのスピーチレベルが訳語に与えられていたが、訳語だけにとどまらず用例にもより微妙で詳しい表示が与えられるようになってきている。なお、このスピーチレベルに関しては3. 3. 2の①でもう一度考えてみる。

(14) こうりよ 考慮 —[動] (理解や決定のためにあれこれ考える) think over ㊦, consider ㊧ ★以上はほぼ同意だが、前者が口語的； (事情や状況を考慮に入れる) take ... into「consideration [account] ; (弱点や困難な点を考慮に入れる・斟酌(じんさく)する) make allowance(s) for ... ★最後の2つを用いるとやや改まった言い方になる。 —[名] consideration ㊨. (☞かんがえる；はいりよ；しんしゃく).

†この点を考慮して下さい Please think over this point [this point over]. [語法]目的語が代名詞のときは<think+目的語+over>の語順。(例) Please think it over./ Please consider this point. /

Please take this point into 「consideration [account] . ★最後の文はやや改まった表現。

(『ライトハウス』)

2. 3. 6 語法・文法・表現などの囲み・欄外記事

語法・文法・表現などの項目に関しては学習型が最も他の辞典との差別化を図ろうと工夫を凝らすところである。(15)のような学習英和辞典ではかなり一般化している形式のものから、『ライトハウス』、『サンライズ』、『プライト』などでは文法事項、機能別表現、会話例などに關する囲み・欄外記事が設けられている。

(15) *しょうらい¹ 将来 (the) future (◆通例 the をつけて用いる。また「将来の状態」を表すときは㊩) † 将来 (は) in (the) future; someday; some day

[語法] in (the) future は the が無い場合は「今までと違ってこれからは」という感じをさす。米国では in the future を両方の意に使うことが多い。someday [or some day] は「未来のいつか、そのうち」の意味

(『サンライズ』)

和英辞典でありながら、学習英和を思わせるような工夫が凝らされた辞書も現れてきた。『旺文社和英中辞典』は「重要動詞シソーラス」と称する欄を設けているが、⁶⁾我々が和英辞典を利用する際しばしば英和辞典を引き直す傾向があること、利用者が和英辞典よりも英和辞典を使い慣れていることなどの理由から設けられたものと思われる(図1を参照)。

『プロシード』は「結びつき」という欄を設けて、英語の立場から見たコロケーションを提示している(図2を参照)。英語を書く場合は英語的発想でという配慮であるが、これには日本語訳は与えられていないので、主に上級者向けのもので初級者には利用しにくいであろう。

これら語法欄については、その内容に関する問題点も多くあり、それらの議論は紙数の関係上別の機会にゆずることとする。

2. 3. 7 類義語解説・訳語の使用分布

類義語解説欄も語法解説欄と同様学習型が力を入れているものの一つで、従来の学習英和辞典でもなじみのある(16)のようなものから、図3のようにそれぞれの訳語のもつ意味素性の分布を簡略して図表化したものまである。⁷⁾意味素性分布図は初級者にも一目で類義語間の意味の分布関係がわかり極めて有用であるが、初級者にも

図1 重要動詞シンソーラス (『和英中辞典』)

考える ⇨ おもう, こうりよ(する)

【用法】

think 考えをまとめたり, 結論を得るために頭を働かせるの意では, 一般的な語. **reflect** 「熟考[熟慮]する」の意で, 済んだことや, 起こった事柄, 再吟味すべき事柄を, ゆっくりとあれこれ考えること. **consider** 「熟考する」の意であるが, **reflect** した結果に出る結論というニュアンスがある. **regard** 見る側の主観や, 対象の外観によって, 「…とみなす」の意. **suppose** **think** より根拠は弱い, 「…と思う」の意. **guess** 単純な事柄について, 当て推量で言ってみるの意で, 「…と思う」として用いられる. **feel** 感覚的・本能的に「感じる」, 「思う」の意.

think *vt.* ① **(think (that) ...)** …と考える; …と思う (⇨ 口語表現では **that** を省くことが多い)
I think that my father is right. (父は正しいと思う) / I don't think that he is saucy. (彼は生意気ではないと思うよ)
② **(think A (to be) B)** AをBと思う;
(think A to do) Aが…すると判断する
Everybody thinks him (to be) a good leader. (みんなが彼を良い指導者だと思っている) // I think it better to leave her alone. (彼女はそっとしておいてあげたほうがよいと思う)
③ (人)が…しようと思っている
I think (that) I will call him. (彼に電話をかけようと思う)
—*vi.* 考える; 思索する
Let me think a moment. ((回答する前に)ちょっと考えさせてください) / I should have thought that way. (そんなふうに考えるべきでした)

reflect *vt.* **(reflect that...)** …をつくづくと考える
She reflected that it was her fault. (それは自分が悪かったと彼女はつくづく考えた) / He reflected why he should have a quarrel over a trifling matter. (なぜつまらないことで口げんかをしたのかと彼はあれこれ考えた)
—*vi.* (reflect 'on [or upon]) 熟考する; じっくり考える; 反省する
She reflected on her last few years. (彼女は自分の過去数年を反省してみた)

consider *vt.* ① …をよく考える; 熟考する; **(consider doing)** …しようかと熟考する; **(consider wh-句[節])** …しようかどうかと考える

Consider my suggestion seriously. (私の提案を真剣に考えてみてくれ) // She is considering going on to a graduate school. (彼女は大学院に進もうかと考えているところだ) // She considered whether or not to tell that to him. (彼女はあのかを彼に言おうかどうか考えた)
② **(consider A (to be) B)** AをBと考える
Most women consider marriage important. (ほとんどの女性は結婚は重要だと考えている) / I consider him (to be) a competent lawyer. (私は彼を有能な弁護士だと考えている)

regard *vt.* **(regard A as B)** AをBとみなす (⇨ Bは名詞・形容詞)
Greeks regarded an olive branch as the symbol of peace. (ギリシヤ人はオリーブの枝を平和のシンボルとみなした)

suppose *vt.* **(suppose (that) ...)** …と思う; …と考える
I suppose (that) he's a bartender [or barman]. (彼はバーテンだと思う) / We supposed (that) he had gone home. (彼は家に帰ったと思った)

guess *vt.* (米口) …を当て推量で言ってみる
I guess (that) he's a doctor. (彼は医者さんでしょう) / Guess how old she is. (彼女がいくつか当ててごらん)

feel *vt.* **(feel that ...)** (感覚的に一瞬)…と思う
He felt that she distrusted him. (彼女が自分を信用していないと彼は思った) / I felt that you should divorce your husband. (ご主人とは離婚すべきだと思った)

図2 イラストと「結びつき」 (『プロシード』)

■■■■ コンピューター ■■■■

外部フロッピー駆動装置 external floppy drive モニター monitor
中央処理装置 CPU, central processing unit
プリンター printer
キーボード keyboard
マウス mouse
フロッピーディスク floppy (disk)

プログラム program

```

100 ** INPUT **
110 INPUT "NAME "; NAME$
120 IF NAME$="" THEN END
130 INPUT "AGE, PHONE "; A
140 PRINT NAME$, AGE%, PHON
150 GOTO 110

RUN
NAME ? RAY
AGE, PHONE ? 24, 207-6666
RAY 24
NAME ?
OK
    
```

コンピューター **結びつき** computer
▷ use a computer introduce; operate; program; turn off; turn on
▷ a personal computer analog; desk-top; digital; electronic; general-purpose; home; lap-top

分かりやすくという意図を考慮に入れたとしても、十分な検証のもとに行われなかつたかえって利用者に誤解を与えるものになる。⁸⁾

(16) さいのう【才能】…

[意味の違い] talent, gift 共に、生まれつきの優れた才能で、ある分野で優れた力を発揮するもの。ability は一般的な語で、生まれつき、また後から修得した才能についてもいう。

(『ブライト』)

2. 3. 8 英米事情の解説と日本風物の紹介

英米事情の解説は一部の学習英和辞典でもある程度行われてきた。⁹⁾ しかし、和英辞典ではその性格上、日本の風物の紹介に多くのページが割かれることになる。学習型では最初の『ライトハウス』では、日本の風物を扱った欄がないわけではないが、どちらかというといふ英米事情の方に重点が置かれていた。一方、最近のものは一般に日本の風物紹介の方に重点を置いてきている。『サンライズ』と『プロシード』は日本独特の物事・風物を表す見出し語のもとで、会話例を通して日本文化の紹介を試みている(図4を参照)。¹⁰⁾

一つの言語を学ぼうとすると、その表面的な事象のみをまねても、その言語が使われている地域と自分の生活している地域との生活・文化の相違を理解しないなら、真にその言語を理解することができないことは言うまでもない。これからの発展が期待される分野である。

2. 3. 9 イラストを使った概念説明

現在刊行されている学習型の和英辞典のほとんどがイラストを訳語の概念説明に使っている。イラストを使った概念説明には、具体的な形を持つものを説明する場合と、抽象的な事柄を説明する場合との2通り考えられるが、和英辞典では前者が圧倒的に多い。スペースは取るものの、言葉で説明しようとするとなりにくくなったりあるいは回りくどくなったりしがちなものも、イラストを使えば一目で理解できしかも印象に残るという利点がある(図2を参照)。

ただイラストを使う場合、何をイラストを使って説明するか吟味することが必要である。例えば、具体的な形を持つものを説明する場合でも、場当たりにイラストを用いるのではなく、日常生活に密接に関わりを持つ物を優先するなど、何らかの基準を設けて行のが望ましい。

図3 訳語テーブル(『サンライズ』)

・さいのう 才能 ability ㊦; (天与の) gift ㊧; talent ㊦; genius ㊧ ⇒のうりよく

才	ある事を行うために必要な	素質と努力による	ability ㊦	より希少な↓
	能	ある特定の分野における	先天的な	
gift ㊧				
genius ㊧				

◆ talent は特に芸術・芸能分野の特定のことに於いて発揮される適性を意味する

◆ genius は芸術や技術の分野で、特に創造的なことに発揮される非凡な天性の才能

図5 漢英熟語辞典(『プロシード』)

[漢英熟語辞典] ケイB

掲	put up, display
掲	前掲書 op. cit.
掲	掲載する carry/掲示
掲	notice/掲示板 bulletin board
掲	/掲揚する hoist
溪	ravine
溪	雪渓 snowy valley
溪	溪谷 ravine/溪流
	mountain stream
経	longitude, pass,
経	sutra, control
経	神経 nerve
経	経緯 details/経営 management/経験 experience/経常
経	收支 current balance/経度
経	longitude
経	読経(ぎよふ) sutra recitation
蛍	firefly
蛍	蛍光灯 fluorescent
蛍	lamp/蛍光塗料 flu-
	orescent paint
敬	respect
敬	尊敬 respect/表敬
敬	訪問 courtesy visit
敬	敬應 reverence/敬語 hon-
	orific/敬老 respect for the
	aged

2. 3. 10 漢英熟語辞典

『プロシード』は「漢英熟語辞典」と称するコラムを設けている(図5を参照)。同辞典の「はしがき」によるとこれは、常用漢字1945字のすべてについて、「漢字の意味を英語で表すとどうなるかを示し、その熟語にも英語を付けた」ということである。和英辞典の利用の可能性を広げようという試みは評価されるべきであるが、漢字一字の意味を英語で表す必要性がどれだけあるのか、その漢字を使った熟語は辞書本体の見出しで検索する方が普通ではないのかなど、実用性のほどは疑問である。¹¹⁾

2. 3. 11 索引

今までみてきたように現在の学習型の和英辞典にはあ

図4 日本を語るための囲み記事 (『プロシード』)

Talking about Japan

住宅事情 (The Housing Situation)

■日本の住宅事情は決して良いとは言えません。特に大都市圏での住宅の値段の高さは深刻で、早期の解決が望まれています。The housing situation in Japan is anything but good. Finding a place to live in or around a large city is particularly expensive. We are hoping for an early solution of the problem.

Q. People speak of Japanese houses as being rather small.
(日本の家は狭いとよく言われますが)

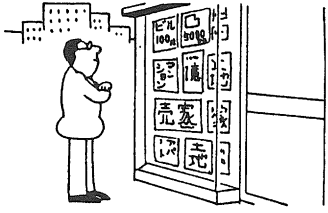
A. ① ええ。大都市圏ではまったくそのとおりです。しかし、地方に行けばまた違います。They are. This is especially true of those in metropolitan areas. The situation is different in rural areas, however.
② 統計によると、日本の家の1人当たり床面積は、西ドイツと同じくらいだそうです。Statistics indicate that living space for an individual in Japan is approximately the same as that in West Germany.

Q. Why is it that houses in metropolitan areas are so cramped? (では、大都市圏の家が狭いのはどうしてなんですか)

A. ① それは地価が高いからです。特に東京の地価は世界でも一二を争うほど高いと言われてています。It is because the price of land is so high. It has been reported that land prices in the Tokyo area are among the highest in the world.
② 平均的サラリーマンが東京周辺で一戸建ての家を持つのはとても難しくなり、マンションと呼ばれる集合住宅が多く建てられています。It has become very difficult for an ordinary company employee to buy a house in the Tokyo area. So a lot of condominiums called *manshon* have been constructed.

■ 関連語

アパート an apartment (house)	建て売り住宅 a house built for sale	住宅ローン a housing loan
マンション a condominium	宅地 a housing area	住宅・都市整備公団 Housing and Urban Development Corporation
一戸建て a house	建ぺい率 building-to-land ratio	



Q. What has caused land prices to become so high?
(どうして土地がそんなに高くなったのですか)

A. ① それは日本人の土地に対する考え方に関係があります。Well, it has to do with typical attitude of the Japanese toward land.
② 日本では、土地は最も安全な財産であり、値上がりすることはあっても値下がりはないと考えられています。It is the safest kind of property in Japan. People believe that land values do indeed increase but never decrease.
③ したがって、土地に対する投機が行われるたびに土地の値段が上がっていくのです。Consequently, for every instance of speculation there is a corresponding rise in land prices.

Q. Then, are there more people who rent than people who buy? (それでは賃貸住宅に住む人のほうが多いのですか)

A. いいえ。日本の持ち家率は60パーセントを超えていて、アメリカに次いで高いのです。Not at all. More than 60 percent of all houses in Japan are owned by the occupants. This places Japan second to the United States.

ふれんばかりの情報が詰め込まれている。これらを効率的に利用しようとすれば当然索引が必要となる。どのような索引が用意されているか次に列記してみる。

- ① 英語索引 (本文中の語法注記, 類義語解説などを英語で検索するためのもの: 『サンライズ』, 『プロシード』)
- ② 囲み記事索引 (『ライトハウス』, 『サンライズ』, 『和英中辞典』, 『プロシード』)

③ 図版索引 (『プロシード』)

④ 漢英熟語辞典索引 (『プロシード』)

②③④はいずれもそれぞれの辞典が工夫を凝らした箇所に対する索引であるが、①はどの学習型の和英辞典にも応用可能なものである。検索できる語は重要語句に限られているにしろ、和英辞典を英和辞典としても活用する可能性を広げるものである。これらの各種の索引を用意

している和英辞典の中で『プロシード』は①～④のいずれの項目にも現れ、和英辞典を和英辞典としてだけの利用で終わらせるのではなく、それ以外の用途にも活用できるような柔軟性のある検索の価値を十分に意識した配慮といえよう。この索引に関しては3. 3. 1で再び考えてみる。

3. 今後の課題

これまで主に学習型の和英辞典においてどのような工夫が凝らされ、またそれらの問題点は何であるかということ論じてきた。この節では、学習型の和英辞典が今後いろいろな情報を提示するに当たってどのような点に配慮をすべきかを、用例や語法情報を中心に検討してゆく。

3. 1 用例について

3. 1. 1 日本語を正確に伝える用例を

一般に利用者は辞典に絶対の信頼を置いているにもかかわらず、相変わらず基本的な誤りが目につく。利用者の信頼を裏切らないためにも、伝えようとする日本語の意味を正確に伝える用例を提示するといった、あたりまえの原則を再確認する必要がある。

(17) 彼は地方の支店に左遷された He was demoted to a post in a local branch.

(『サンライズ』s.v.「左遷」)

(17)では、日本語の方は俗にいう「田舎の支店にとばされた」程度の意味であろうが、訳例では特に「田舎」の支店である必要はなくなる。local ではなく、(18)のように provincial を用いる方が適切であろう。

(18) 彼は地方の支店に左遷された He was demoted to a post in a provincial branch.

3. 1. 2 提示した用例の違いを示す

特定の日本語に対して複数の訳例を示す場合は、ただそれらを列記するだけでなく、それらの意味やニュアンスの違い、また語用論的な情報を与えるのが望ましい。

(19) 子供のころはよく父にしかられたものだ I was often scolded off by my father 「when I was a child [or in my childhood].

(『サンライズ』s.v.「ころ」)

(19)の場合、when の用法を中心に用例を示すとすれば、日常生活では when 節を用いる方が普通であり in my childhood は堅い言い方であること、「子供のころは」を強調したいときは時を表す部分を文頭にも置けること、

主節と when 節の主語が同じ場合は when 節中の主語と be 動詞が省略可能であることなどを示してやればよい。¹²⁾

(20) 子供のころはよく父にしかられたものだ I used to get told off by my father 「when (I was) a child [or in my childhood]. (◆(1) in my childhood は堅い言い方、(2)主節と when 節の主語が同じ場合は when 節中の主語と be 動詞は省略可能、(3)「子供のころは」を強調したいときは When (I was) a child [or in my childhood], I used to get told off by my father. の語順も可能)

3. 1. 3 周辺の知識を得られるような用例提示を

用例をあげる場合、その用例をあげることによって、周辺の知識を得ることができるようあげ方が望ましい。

(21) 彼らは現場へと急いだ They hurried [or rushed] to the scene. (『サンライズ』s.v.「急ぐ」)

(21)は(22)のようにすることによって、hurry という動詞の主語の選択制限の情報を与えることができる。

(22) 彼らは現場へと急いだ They hurried [or rushed] to the scene. (◆ hurry は通例人が主語の場合に限られるが比喩的に緊急車両などにも用いる：消防車は現場へと急いだ The fire engines [×The car] hurried to the scene. 普通の車の場合は The car went quickly to the scene. などとする)

3. 1. 4 現実的な用例を一過度な単純化は避ける

2. 2で述べたように、一般に学習型の和英辞典は訳語の用法理解を助けるため焦点を絞った比較的単純な例が好まれる傾向がある。しかし、あまりに単純化し過ぎると、実際には使う可能性の少ない非現実的なものになってしまう恐れがある。

(23) 彼は工場で働いている He works in a factory. / He is a factory worker.

(『ライトハウス』s.v.「工場」)

(23)の日本語はどういった状況で使うのか。この例文単独で近所にある特定の工場をさすのであれば、the factory となるはずである。そうでないなら、普通「工場で働いている」と言うからには例えば(24)のように「どこの」あるいは「どんな」工場であるかを示さないと情報価値は著しく低いものになってしまう。

(24) 彼はソニーの工場で働いている He works in a factory of Sony. / He is a Sony's factory worker.

(25)では、無色な用例を提示しようとするあまり、すぐに

は使えない用例となっている。

- (25) 夜が明ける Day breaks [or dawns]. (◆ Night dawns. とはいわない。「日が暮れる」なら Night falls. とする) (『サンライズ』s.v.「明ける」)

例句の場合は別として、完全な文の形で例をあげる場合は、実際にすぐ使えるようある程度状況を特定化しなければ、初級者には使いにくいものとなる。(25)の場合、実際の日常的な文脈では「夜が明けた」とか「もうすぐ夜が明ける」などの形で与えるのが適切であろう。また、(25)の英語の訳例は主に書き言葉のもので、日常会話では用いられない。(26)のように注記しておくべきである。

- (26) 夜が明けた Day [or Morning] has broken [or (やや堅い語) dawned]. (◆(1)過去のできごととしてとらえる場合は過去形も可能。(2) break, dawn は night を主語にはしない。(3)主に書き言葉で、日常会話では It's morning. (朝だ) や Morning has come [is here]. (朝がきた) のほうが普通)

3. 1. 5 日常的な用例を

学習型の辞典は学校や入試などで好んで取り上げられる事柄を扱うことに熱心なあまりに、他の日常的な表現がしばしば見落とされることがある。

- (27) 彼は大阪大学の学生だ He is a student at Osaka University. / He goes to Osaka University.

注意 私はこの大学の学生です

○ I am a student at this college.

× I am a student of this...

(ただし the students of this college は「この大学の全学生」の意味) (『プロシード』s.v.「学生」)

「…大学の学生」という表現で前置詞として at を使うか of を使うかという議論は学習英和辞典や参考書などでおなじみのものであるが、文脈・知名度などによっては(28)のような型のほうがより日常的。

- (28) He is a Waseda [Kobe] (University) student.

3. 1. 6 利用者が生活実感できる用例を

用例はできるだけそのまま活用できる形で与えられるのがよいわけであるが、学習効果という面から考えると、利用者が生活で実感できるような事象を例文として取り上げるのが興味を持つことができ印象にも残る。

- (29) テレビで野球の試合を見る watch a baseball game on television. (『ブライト』s.v.「テレビ」)

(29)のような無難な例もよいが、初級者用の学習辞典であれば次のように人気テレビ漫画を例に取るのもよいかもしい。

- (30) 私はきのうテレビでドラエモンを見た Yesterday I watched (cartoon) "Doraemon" on [over] (the) TV. (★ on のほうが普通)

3. 2 語法・用法上の情報について

3. 2. 1 本当に必要な注記か

ほとんどの学習型の和英辞典が語法注記などの豊富さをうたい文句にしているわけであるが、果たしてそれらの注記は適切な内容のものが適切な箇所になされているのであろうか。

- (31) 彼は大きな志しを抱いて上京した He came to Tokyo with great ambition. (◆アメリカの場合、「上京する」に相当する言い方として come [or go] to のあとに Washington や New York ばかりでなく、一般に大都市の名前がつづく)

(『サンライズ』s.v.「志し」)

日本語の「上京する」は東京に行く場合に限って使うので、この注は日本語の立場からすれば意味がない。それよりもむしろ、日本人が安易に使いやすい go up to Tokyo などについて注記すべきである。ちなみに、同辞典の「上京」の項では(32)のようになっている。

- (32) 上京する (東京へ出る) go [or come] (up) to Tokyo. / 彼は昨日上京してきた He came up to Tokyo yesterday.

(32)の英語の訳文は英国語法では認められるが、米国語法では通例「東京へ向けて北上した」の意となり、¹³⁾ 東京以北から「上京」してきた人には使えないことになる。

(31)では不要な注記をつけ、(32)では必要な注記を怠った例である。

3. 2. 2 スピーチレベルのつけ方について

和英辞典が英語の訳語にスピーチレベルをつける場合、2つの方法が考えられる。まず一つは日本語の見出し語のスピーチレベルに相当する英語の訳語を与える方法である。つまり、日本語がくだけた言い方である場合は英語もくだけた言い方、日本語が堅い言い方の場合は英語も堅い言い方の訳語を与えるわけである。もう一つは日本語の見出し語に対して、スピーチレベルにおいて最も無色な語をまず与え、その後で日本語のスピーチレベルに対応するものを注記として与えるやり方である。

- (33) しぬ 死ぬ — 動 (最も普通に) die ④; (外からの原因で死ぬ) be killed; (婉曲な表現で) pass (away) ④; (自殺をする) kill oneself. — 形 (死んだ) dead. …

- (34) なくなる² 亡くなる (死ぬ) die ④, pass away ④

参考 pass away は die の婉曲的表現。(☞しぬ(類義語); 婉曲語法(欄外))

- (33) くだばる(死ぬ) kick the bucket ★「死ぬ」(die) という意味の米俗語; (くたくたになる) be exhausted. (☞しぬ(類義語); へこたれる) …
- (33), (34), (35)はいずれも『ライトハウス』からのものであるが, スピーチレベル表示の仕方に統一性がとれていない。すなわち, 上で述べた2つの方法のうち(33)と(34)は後者の方法で書かれており, (35)は前者の方法で書かれている。どちらの方法で統一するかはその和英辞典の編集方針にもよるであろうが, 利用者が「死ぬ」という見出し語を引かずにわざわざ「亡くなる」や「くだばる」を引くのは, 利用者がその日本語に相当する英語を求めているからなのであり, また, 利用者が掲載されている最初の訳語を採用する傾向が強いことを考え合わせると, (36), (37), (38)のように見出し語の日本語のスピーチレベルに相当する英語の訳語をまずあげ, それを基準に他の訳語とのスピーチレベルの差を示す方が親切である。
- (36) しぬ 死ぬ die (◆状態を表すときは be dead); (亡くなる)(婉曲的に) pass away; (くだばる)(俗) kick the bucket; (外的原因で) be killed; (自殺をする) kill oneself.
- (37) なくなる 亡くなる pass away. (◆「死ぬ(die)」の婉曲表現)
- (38) くだばる kick the bucket. (◆「死ぬ(die)」の俗語表現)

3. 2. 3 音声上の配慮

学習型の和英辞典の多くが発音の難解な語に発音記号を表示するようになってきていることはすでに2. 3. 2で述べたが, 例えば「もう」の項目であれば, (39)のように文単位でも何らかの方法で音声上の注記が欲しい。

- (39) 「先に宿題をしなくっちゃ」「もうやったよ」「You should do your homework first of all.」「I already have.」(◆強意的に短く答える場合は already を助動詞の前に置いて, 助動詞に強勢を置く)

3. 2. 4 度量衡制度の相違への配慮

専門的あるいは科学的文脈を除いて, 日常生活においては英米ではメートル法よりもヤード・ポンド法の方が普通である。特に, 日常生活でよく用いる身長や体重などは, それぞれフィートやポンドを用いてというのが普通であり, センチやキロを使えば英米人は理解に時間を要するであろう。にもかかわらず, 今までの和英辞典は用例の日本語がメートル法を使ってあれば迷わずそれをそ

表1 身長に関する対照表

身 長	
メートル法	ヤード・ポンド法
: (m)	: (ft.)
160~161	5.2
162~164	5.3
165~167	5.4
168~170	5.5
171~173	5.6
174~176	5.7
:	:

のまま英語の訳例でもメートル法で表している。多くの和英辞典の巻末などにはメートル法とヤード・ポンド法の換算表についてはいるが, 実際に利用する場合には新たに計算が必要となる。また, 「身長」や「体重」といった見出し語のもとでは何の注記もなしにメートル法を使ってあるので, おそらくこの換算表を利用する機会も少なく, また換算表があることさえも知らない利用者も多いことであろう。より実用的な記述を目指すのであれば, 「身長」「体重」「長さ」「重さ」「速さ」など度量衡の単位と関係のある項目で, 日本と英米の度量衡制度の違いにふれ, 例えば表1のような日常頻繁に使用する範囲の対照表ぐらいは欲しいところである。また, 用例などでも(40)のような配慮が望まれる。

- (40) 身長は170センチあります I am 5.5 feet [170 centimeters] (tall). (◆くだけた言い方では tall はしばしば省略される; 英米では単位はフィートを用いる方が普通)

3. 3 その他

3. 3. 1 索引・クロスレファレンスの充実

学習型の和英辞典が, 情報検索の効率化を図るため多種多様な索引を用意するようになってきていることはすでに2. 3. 11で述べた。辞書本体に盛り込まれた様々な情報を必要な時にいつでも取り出せ, 辞書の中を必要な情報を求めて縦横無尽に動き回れる状態が望ましい。和英辞典を和英辞典として利用するだけでなく, 基本語英和辞典・語法辞典・類義語辞典などとしても利用でき, それ一冊あれば「とりあえず作文できる」といったものが理想的である。

クロスレファレンス (cross-reference) は, スペースの制限が厳しい辞書編集において, 同様の内容を類似した見出し語のもとで何度も繰り返すことを避けるために

用いられる方法であるが、安易なクロスレファレンスの利用は検索を非効率的にするだけでなく、採用すべき日本語のコロケーションを失うことにもなりかねないため慎むべきである。コンピューターを使った電子辞書ならいざ知らず、現在一般にあるような紙でできた辞書である以上、ある程度の重複は仕方がないであろう。

3. 3. 2 本文中で扱いにくい情報

①スピーチレベル

2. 3. 5で学習型の和英辞典が、訳語レベルだけではなく訳文のレベルにおいてもスピーチレベルの注記をつけるようになってきていることを述べた。スピーチレベルは外国人として英語を学ぶ場合だれもが遭遇する問題であるだけに、個人差や地域差もあるため難しい面もあるが、何らかの足がかりとなる情報を提示する必要がある。この節では以上のようなことを踏まえた上で、「スピーチレベルとは何か」という基本的な問題を和英辞典はどう扱っているのかを見てみたい。

このスピーチレベルの考え方に関しては、『新和英中辞典』と『ライトハウス』の巻頭に他辞典よりやや詳しい解説があるだけで、その概念を取り入れているにも関わらず体系的な説明が行われている和英辞典はない。もちろん初級者向けの辞典は専門的な内容は必要ないが、少なくともスピーチレベルの略号がどういう基準でつけられているかといったことぐらいは解説を入れて欲しいものである。上記2辞典はまだ良心的な方で、他の辞典では多くの場合、(米)などが何の略であるかを示してあるだけであったり、なかにはそのことも記していない辞典も見られる。

また、従来のようにそれぞれの見出し語のもとで得られるスピーチレベルに関する情報は、いわば語句のレベルの断片的なもので応用性に欠ける。初級者だからこそ、それらの知識を統一的に整理できるように構文的視野にたった解説が望まれるところである。

②英作文への配慮

本来和英辞典は英語を話したり書いたりするためのものであるわけであるが、書く際に必要な基本的な知識に関する情報は以外と軽んじられてきた。いわゆる自由英作文の際に必要なパラグラフの展開や句読法の知識など、もっと注目されるべきである。¹⁴⁾

③冠詞の用法

冠詞は日本語の訳語として具体的に現れないことが多いため、利用者が英作文をするとき常に頭を悩ます問題であろう。日本語の訳語として現れにくいということは、取りも直さず、和英辞典の利用者がその用法を知る

うとしてもすぐにはその情報を得られないということである。いわゆる特定の名詞に定冠詞を付けるとか付けないとかいった情報だけでなく、語用論的観点からの解説が望まれる。

4. おわりに

限られた例ではあるが、学習型の和英辞典が進みつつある方向と今後の問題点を主に実用性という観点から検討してきた。辞典である以上、実用性は当然考慮されていなければならないにもかかわらず、いまなお改善の余地があることを示した。しかしながら、一般に辞典の効率的な利用を促すには、これまで述べてきた辞書をつくる側の努力にもまして、適切な辞書指導が必要であるということを申し添えて本稿を終えることにする。

Notes:

本稿は1988年10月23日に六甲英語学研究会で口頭発表したものを加筆修正したものである。同会で、貴重なご意見を下さった先生方に心より感謝申し上げる次第である。

- 1) 本稿では最近6年間に刊行あるいは改訂された主な和英辞典を参考に行っている。辞書の参考文献欄を参照。
- 2) 詳しくは井上(1988)を参照。
- 3) ここより、「読解型の和英辞典」という言い方に対応させて、あえて「学習和英辞典」という言い方はせず「学習型の和英辞典」という呼び方を用いる。
- 4) この方式もすでに学習英和辞典では行われている(『アンカー英和辞典』(初版)(学習研究社:1972)など)。ただ、この□と□の表示法は『ブライツ』の巻頭にある「この辞典の使い方」には記されていない。もし徹底して行われているのであればその旨を明確に示しておかなければ活用されずじまいになる可能性が高い。
- 5) 詳しくは原川(1988)を参照。
- 6) 名前は「シソーラス」となっているが、図1のように、類義語説明に加えて、英和辞典方式で文型表示と用例などが与えてある。初級者版の『サンライズ』にも類似した欄がある。
- 7) 図3のようなものを『サンライズ』は「訳語テーブル」と呼んでいる。類義語の意味素性の分布を図表化する試みはすでに『アンカー英和辞典』(第2版)(学習研究社:1981)及びその改訂版である『ニュー

- アンカー英和辞典』(学習研究者:1988) [いずれも巻末付録], 『ジーニアス英和辞典』(大修館書店:1988) 及びその初級者版である『フレッシュ ジーニアス英和辞典』(大修館書店:1989) [いずれも s.v. tremble)で行われている。cf. Rudska, et al.(1981)
- 8) cf. 山田 (1989).
- 9) 最もこの特徴が著しいのは『ニューアプローチ英和辞典』(研究社:初版, 1983; 第2版, 1988)。
- 10) 『サンライズ』の親版である『和英中辞典』は, 同様の見出し語のもとで「日本の風物」という欄を設けて英語で説明を行っているのみである。
なお, 『サンライズ』は「会話欄」と呼ぶコラムを設け, 「日本人」が「外国人」にその見出し語について英語で説明するという形をとっているが, 「外国人」という設定は漠然としていて不適切である。確かに英語に通じる国は多いが, 初級者には「外国人はみな英語を話す」といった奇妙な印象を与える恐れがあるだけでなく, 日本人の英語文化に対する片寄った傾倒を思い起こさせるので, 例えば「太郎」と「ヘレン」などの具体的な個人名を使う方がよい。
- 11) 通常の英和辞典でさえ, 自分の語彙が増えてくれば, 漢和辞典ほどではないにしても, 忘れた漢字を調べるのに十分利用できるが, こういったことを教師側が辞書指導の際に学生に気付かせることは有用であろう。
- 12) scold もあまり用いられなくなりつつあるので (cf. LDCE²), 代わりに tell off などを用いる方がよい。
- 13) OALD⁴, または OALD³及びその米国語版である OSAE²を参照。
- 14) 句読法に関しては『プログレッシブ』, 『新和英中辞典』が付録で扱っている。パラグラフの展開に関しては, 十分な解説をしたものはないが, 『プロシード』に「スピーチ原稿の書き方」という付録があるのは注目に値する。

References:

- 原川博善 (1988), 「辞書特集: 学習英和辞典——語義提示」, 『語法研究と英語教育』第10号, 山口書店, pp. 4-13.
- 井上永幸 (1988), 「辞書特集: 学習英和辞典——語法情報」, 『語法研究と英語教育』第10号, 山口書店, pp. 31-39.
- Rudska, R., J. Channell, Y. & P. Ostyn (1981), *The*

Words You Need. London and Basingstoke: Macmillan.

- 山田政美 (1989), 「アメリカ英語・文化の記述——その問題点」, 『英語教育と英語研究』第6号, 島根大学教育学部英語教育研究室, pp.75-81.

辞書: ([]内は本稿で用いた略記。配列は出版年順)

Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English. London & Tokyo: OUP & Kaitakusha. (1985) [OALD³]

Oxford Student's Dictionary of American English. Oxford: OUP. (1986) [OSAE²]

Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English. Oxford: OUP. (1989) [OALD⁴]

『新和英中辞典』第3版 研究社. 1983.

『ライトハウス和英辞典』研究社. 1984. [『ライトハウス』]

『旺文社和英中辞典』旺文社. 1986. [『和英中辞典』]

『小学館プログレッシブ和英中辞典』小学館. 1986. [『プログレッシブ』]

『サンライズ和英辞典』旺文社. 1987. [『サンライズ』]

『新クラウン和英辞典』第5版 三省堂. 1988.

『プロシード和英辞典』福武書店. 1988. [『プロシード』]

『ブライト和英辞典』小学館. 1989. [『ブライト』]